

デバイス検索 Web アプリの開発・導入が循環器カテーテル室看護師の不安に与える効果

¹総合東京病院尾曲 淳平¹

【目的】循環器カテーテル検査・治療に用いられるデバイスは種類が増加・多様化しており、当院の事前調査では91.7%の看護師がデバイス知識不足を感じていた。本研究では、デバイス検索 Web アプリケーションを開発・導入し、その使用が循環器カテーテル室看護師のデバイス介助への不安に与える影響を明らかにする。【方法】A 病院循環器カテーテル室に勤務する看護師 17 名を対象とした準実験的研究（導入前後比較）。デバイスの名称・分類・特徴・使用場面・注意点を収載した Web アプリケーションを作成し、業務中や記録時に即時参照できる環境を整備した。導入前後に NRS および自作尺度（9 項目・5 件法）による調査を実施し、Wilcoxon の符号順位検定で比較した。また循環器カテーテル室経験 2 年未満（経験浅群）と 2 年以上（経験習熟群）に分類し群間比較を行った。【結果】NRS の中央値は導入前後とも 6 点で有意差を認めなかった（ $p=0.06$ ）。自作尺度合計点の中央値は 39 点から 35 点へと有意に減少した（ $p=0.001$ 、効果量 $r=0.99$ ）。群別では経験浅群で有意な減少を認めた（ $p=0.04$ ）一方、経験習熟群では有意差に至らず、いずれの群も改善幅は小さかった。【結論】Web アプリケーションの導入により、デバイス介助への不安は特に経験の浅い看護師で有意に減少したが、その効果は限定的であった。不安軽減には知識提供に加え、臨床経験や事例検討と組み合わせた継続的な活用が必要と考える。